

# 米国金融政策（2024年5月FOMC）

## 政策金利を6会合連続で据え置き

2024年5月2日

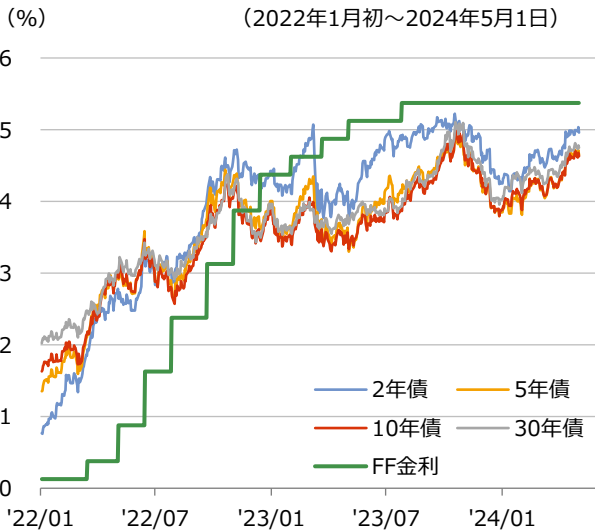
### 2%インフレ目標への更なる進展なし、年内の利下げ回数を再考へ

FRB（米国連邦準備制度理事会）は4月30日～5月1日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを5.25～5.50%で据え置くことを全会一致で決定しました。政策金利の据え置きは6会合連続です。他方、国債の保有額縮小のペースを見直し、6月から月額上限を600億米ドルから250億米ドルへと引き下げることを決定しました。なお、MBS（住宅ローン担保証券）については、月額上限を350億米ドルのままとしました。

声明文では引き続き、「政策金利に対するいかなる調整の検討に際して」も、今後のデータや見通しの進展、リスク・バランスを「精査していく」としたほか、持続的な2%インフレ目標の実現に確信を深めるまで、「利下げは適切と思わない」と記しました。また、足元の物価動向について、「2%インフレ目標に向けた更なる進展を欠いている」と新たに指摘しました。パウエルFRB議長も「利下げに向けた自信が深まるには従来想定よりも時間が掛かる」と述べ、利下げ開始が遠のきつつあることを示唆しました。

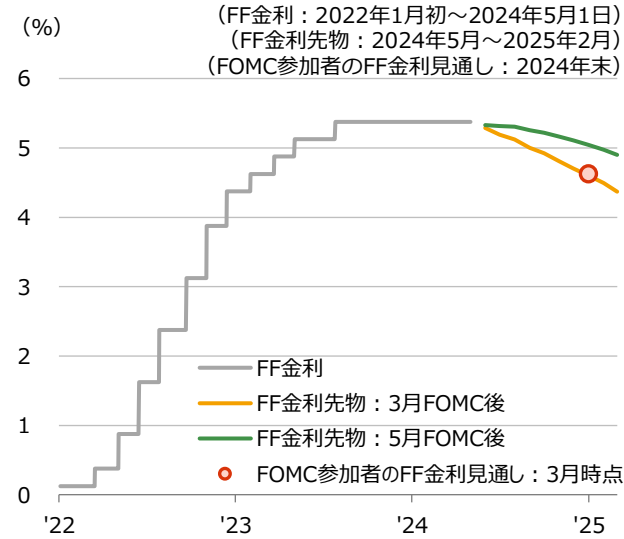
FF金利先物では年内1回強の利下げを織り込むに留まるなど、市場では今回のFOMCに先駆けて利下げ開始先送り観測が大幅に強まっていたため、今回のFOMCを受け、金利は短期を中心にむしろ全般的に低下しました。FOMC参加者は3月のFF金利見通しで年内3回（中央値）の利下げを想定していましたが、雇用・物価統計を確認しつつ、6月FOMCにかけて年内の利下げ回数を再考していくとみられます。

#### FF金利と米国債利回り



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値  
(出所) ブルームバーグ

#### FF金利の実績と見通し



(注) FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値  
(出所) ブルームバーグ

#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。